



那珂建25号

平成19年5月8日

国土交通省道路局長 様

栃木県那珂川町長 川崎 和郎



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について(回答)

平成19年4月2日付け国道企第114号で依頼のありました件について、別添のとおり送付します。

今後の道路政策や道路の整備・管理について

1. 町の道路現況について

本町は公共交通が少なく、移動にはほとんどが自家用車に依存しているため、他の交通手段を持ちません。当然のことながら、住民の道路整備への関心は非常に高く、懇談会等を開催すると道路整備に関する要望が大半となってしまいます。

県の「新たな県土60分構想」には、県都まで60分以内の道路整備、高速道路ICまで30分以内の道路整備が成果目標に掲げられていますが、本町の大部分が目標達成の圏外となってしまいます。このような不利な地理的条件、そして山林が町全体面積の60%を占める地形的条件から、企業や産業の誘致がなかなか進まない状況にあります。

2. 道路整備のあり方について

本町には馬頭広重美術館、那須官衙遺跡など観光施設が数多くあり、年間約180万人が町を訪れ、日常生活に安らぎをもたらす森林資源などを活用した農業体験、林業体験などの交流事業も地道に行なわれています。こうした観光客を快く迎え、交流人口を増やし町の活性化を推進するためにも、国道293号などの地域の交流軸となる広域的幹線道路の整備は必要です。

一方、地域住民が安心できるような、日常生活を支える道路の整備も欠かす事はできません。家族そろっての買い物、通勤通学が便利になり、救急医療機関までの時間を短縮できる道路は、地域の生命線であり活力をもたらす基礎となるものです。

3. 都市偏重を是正する道路整備について

地方部は、都市部と比較して道路整備が立ち遅れているということは否定できません。事業費を人口比により配分することは、効率的な整備の観点からすれば説得力はあります。都市部で排出される二酸化炭素の量を削減するため、渋滞を緩和する事は、環境を阻害しない近道になります。

しかし、本町のような中山間地域では、日常生活に深くかかわる道路整備をおろそかにしては、地域の活力が削がれ、疲弊した集落だけが取り残されてしまいます。結果として

荒廃した森林が増えることになり、環境浄化の役割を担う森林の機能低下に結びついてしまいます。都市偏重の事業費配分システム以外にも、地域の活力を維持でき、森林資源の保全を促す道路整備手法を検討する必要があると考えます。

4. 道路特定財源について

道路の整備状況は地域の生活水準を計る一つのバロメーターとなり、財政基盤の脆弱な地域において、道路整備の立ち遅れは、過疎化をなお一層加速させることとなります。どうしても都市部の声に支配されがちで、都市部優先の状況にありますが、本県の道路特定財源の収支に限って言えば、「収入超過」の状態になっているということを耳にします。

当然、道路特定財源は車の保有台数及び車の利用率に直接関係してきますので、都道府県単位の道路特定財源の収支を考慮した道路整備も一つの選択肢として考えていただければと思います。